

## シラバス〔音楽〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学1年	グローバル選抜 探究・未来探究	音楽	音楽	2
<b>教科書</b>				
『中学生の音楽1』教育芸術社 『中学生の器楽』教育芸術社				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにします。</p> <p>(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養います。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1学期</b>	<p><b>【鑑賞】</b> 音楽から得られるイメージと、音楽の特徴との関わりに注目しながら鑑賞します。</p> <p><b>【歌唱】</b> 校歌の歌詞の意味を理解しながらの歌唱をします。</p>
<b>2学期</b>	<p><b>【鑑賞】</b> 音楽の特徴に注目しながら情景を思い浮かべて聴きます。 日本やアジア各地の音楽を聴き、楽譜や音楽用語について理解を深めます。</p> <p><b>【歌唱・器楽】</b> 楽器の演奏を通して、演奏する楽しさや合わせる楽しさを体験します。 情景を思い浮かべながら歌います。</p>
<b>3学期</b>	<p><b>【鑑賞】</b> 和楽器について学びます。楽曲や作曲者、楽譜の読み方や書き方について更に理解を深めます。</p> <p><b>【歌唱】</b> 中学卒業式の式歌を練習します。</p>
<b>評価方法</b>	
<p>歌唱（声の調子やリズム、音程、発声）器楽（楽器演奏方法、音楽的な表現力）及び授業への参加度、提出物、学年末考査（3学期のみ）により評価します。</p> <p>学年末考査の配点：A問題（基本50点）B問題（標準30点）C問題（発展20点）</p>	

<b>備考</b>

## シラバス〔音楽〕

学年	コース	教科	科目	単位数
中学2年	グローバル選抜 探究・未来探究	音楽	音楽	1
<b>教科書</b>				
『中学生の音楽2・3上』 教育芸術社 『中学生の器楽』 教育芸術社				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽の技能を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにします。</p> <p>(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養います。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
1 学期	<b>【鑑賞】</b> 曲の構成に注目しながら、曲想の変化やおもしろさを理解します。
	<b>【歌唱】</b> 拍やパートの役割を意識し、ハーモニーを楽しみながら合唱します。
2 学期	<b>【鑑賞】</b> オペラに親しみ、その音楽を理解します。楽譜や音楽用語についての理解を深めます。
	<b>【器楽・歌唱】</b> 楽器の演奏を通して、演奏する楽しさや、合わせる楽しさを体験します。
3 学期	<b>【鑑賞】</b> 日本や世界の諸民族の声や音楽を学びます。楽曲や作曲者、楽譜の読み方や書き方について更に理解を深めます。
	<b>【歌唱】</b> 中学卒業式の式歌を練習します。
<b>評価方法</b>	
歌唱（声の調子やリズム、音程、発声）器楽（楽器演奏方法、音楽的な表現力）及び授業への参加度、提出物、学年末考査（3学期のみ）により評価します。 学年末考査の配点：A 問題（基本 50 点） B 問題（標準 30 点） C 問題（発展 20 点）	
<b>備考</b>	

## シラバス [音楽]

学年	コース	教科	科目	単位数
中学3年	未来探究	音楽	音楽	1
<b>教科書</b>				
『中学生の音楽2・3下』 教育芸術社 『中学生の器楽』 教育芸術社				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽の技能を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにします。</p> <p>(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養います。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
1 学期	<b>【鑑賞】</b> 音楽の要素に注目しながら楽曲を聴きます。
	<b>【歌唱】</b> 歌詞や曲想から表現を工夫して歌います。
2 学期	<b>【鑑賞】</b> 曲が生まれた背景を理解して、作曲者の思いを感じ取りながら聴きます。
	<b>【器楽・歌唱】</b> 楽器の特性を生かして、演奏する楽しさや合わせる楽しさを体験します。 日本語の発音に注意しながら歌唱をします。
3 学期	<b>【鑑賞】</b> 日本の伝統音楽に親しみます。楽曲や作曲者、楽譜の読み方や書き方について更に理解を深めます。
	<b>【歌唱】</b> 中学卒業式の式歌を練習します。
<b>評価方法</b>	
歌唱（声の調子やリズム、音程、発声）器楽（楽器演奏方法、音楽的な表現力）及び授業への参加度、提出物、学年末考査（3学期のみ）により評価します。 学年末考査の配点：A 問題（基本 50 点） B 問題（標準 30 点） C 問題（発展 20 点）	

<b>備考</b>

## シラバス [音楽]

学年	コース	教科	科目	単位数
高校1年	グローバル選抜 探究・選抜・未来 探究	芸術	音楽 I	2
<b>教科書</b>				
『ON!1』 音楽之友社				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにします。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養います。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1 学期</b>	<p>【歌唱】正しい発声を身につけて豊かな響きで歌います。呼吸法、発声法を学びます。(校歌、甲子園コーラス「今ありて」の合唱 外国曲の歌唱)</p> <p>【器楽】音色を工夫したり、リズムパターンを変化させたりして、リズム合奏を楽しみます。(トーンチャイム、鍵盤楽器、リズムアンサンブルの演奏)。</p> <p>【鑑賞】音楽を聴いて感じ取るイメージや感情を自分の言葉で文章として書きます。(交響曲、管弦楽曲、独奏曲等鑑賞)</p>
<b>2 学期</b>	<p>【歌唱】ミュージカルや映画音楽の場面や情景を思い浮かべ、劇と音楽の関わりを味わって歌います。</p> <p>【鑑賞】登場人物の性格や感情と声との関わりを感じ取ります。(オペラ、ミュージカルの鑑賞)</p> <p>【器楽】音の響きや周りの音をよく聞き、協働して合奏をする喜びを知ろう。(ハンドベル、鍵盤楽器の合奏)</p>
<b>3 学期</b>	<p>【歌唱】歌詞や曲全体の意味を理解し、合唱表現を体験します。(卒業式歌、甲子園コーラス「今ありて」の合唱)</p>
<b>評価方法</b>	
授業に取り組む姿勢、提出物、実技テストなどにより評価します。	

<b>備考</b>

## シラバス [音楽]

学年	コース	教科	科目	単位数
高校1年	未来探究	演奏研究 A		2
<b>教科書</b>				
担当者によるプリント教材				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>ピアノや声楽を通して、初等教育に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けます。                      それぞれレベルに応じて対応できるように授業を行います。                      タブレットを用いて、客観的な評価をそれぞれができるようにします。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1 学期</b>	<p><b>【鍵盤楽器】</b>                      基礎的なピアノの奏法やコードネームを覚えます。</p> <p><b>【歌唱】</b>                      自然な発声ができるように、正しい姿勢や呼吸法を学びます。</p> <p><b>【読譜】</b>                      ト音記号、ヘ音記号の楽譜を読む練習をします。                      基本的な楽譜の記譜法を学びます。</p>
<b>2 学期</b>	<p><b>【鍵盤楽器】</b>                      応用的なピアノの奏法やコードネームを覚えます。</p> <p><b>【歌唱】</b>                      発声の練習用の教材を用いて、歌唱の練習をします。</p> <p><b>【創作】</b>                      ペーパーサートを作成します。</p> <p><b>【読譜】</b>                      ト音記号、ヘ音記号の楽譜を読む練習をします。</p> <p><b>【聴音】</b>                      音を聞き分けて、記譜する力を身につけます。</p>
<b>3 学期</b>	<p><b>【鍵盤楽器・歌唱】</b>                      童謡などの平易な曲の弾き語りや卒業式歌、甲子園コーラスの「今ありて」を歌います。</p> <p><b>【創作】</b>                      個人の進度に合わせて作曲をします。</p>
<b>評価方法</b>	
授業に取り組む姿勢、提出物、実技テスト、課題などにより評価します。	

<b>備考</b>

## シラバス [音楽]

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	グローバル選抜 探究・選抜・未来 探究	芸術	音楽Ⅱ	2
<b>教科書</b>				
『ON! 2』音楽の友社				

授業のねらい (年間指導目標)	
<p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景等との関わり及び音楽の多様性について理解を深め、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聴くことができるようにします。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養います。</p>	
授業の進め方 (年間指導計画)	
1 学期	<p>【歌唱】多様な表現形態を通して、日本語や外国語の歌詞を味わい、曲種に応じた発声による歌唱表現を行います。〈校歌、甲子園コーラス『今ありて』の合唱等〉</p> <p>【器楽】1年生の時の合奏活動を活かして、色々な曲に挑戦します。〈鍵盤楽器〉</p> <p>【鑑賞】音楽の様々な形式を知り、楽曲の構成や表現内容、楽器の使い方に注意しながら聴きます。〈協奏曲、交響曲の鑑賞〉</p>
2 学期	<p>【歌唱】独唱力を高めます。〈校歌、甲子園コーラス『今ありて』の合唱、ミュージカルの歌唱〉</p> <p>【鑑賞】劇的な物語と音楽が密接になっていることに注意するとともに、どのような楽器が効果的に使われているかを感じ取ろう。〈オペラ、ミュージカルの鑑賞〉</p> <p>日本の伝統芸能や世界の各地域の音楽の特徴を知り、音楽の良さや美しさを感じ取ります。</p> <p>【器楽】さまざまな楽器を演奏できるようにします。〈ギターやピアノなど〉</p>
3 学期	<p>【器楽】楽器の演奏方法を更に発展させます。</p> <p>【鑑賞】世界のポピュラー音楽の文化について理解を深めます。</p> <p>【歌唱】卒業式歌、甲子園コーラス『今ありて』を歌唱します。</p>
評価方法	
授業に取り組む姿勢、提出物、実技テストなどにより評価します。	

備考

## シラバス [音楽]

学年	コース	教科	科目	単位数
高校 2 年	未来探究	演奏研究 B		2
<b>教科書</b>				
担当者によるプリント教材				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>ピアノの基礎を習得し、保育に使える曲の弾き歌いができるようにします。また、主体的な音楽活動により、一層豊かな感性や表現力を身につけます。</p> <p>それぞれのレベルに応じて、対応します。</p> <p>創作を取り入れることにより、それぞれが自由な発想の中で創意工夫をしながら、発表できる機会をつくります。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1 学期</b>	<p><b>【鍵盤楽器】</b> ピアノの基礎奏法を身につけ、コードネームについて理解します。</p> <p><b>【歌唱】</b> わらべ歌に取り組みます。 コンコーネ 50 番より No. 1～No. 10 を歌います。 日本語の発音について学びます</p> <p><b>【記譜法】</b> 楽譜の基本的な書きかたを学びます。 楽典の基礎を学びます。</p> <p><b>【創作】</b> 詩や随筆を音読し、言葉の発声について学びます。その後、物語の創作に取り組みます。</p>
<b>2 学期</b>	<p><b>【鍵盤楽器】</b> ピアノの基礎奏法を身につけ、コードを使用した伴奏付けができるようにします。</p> <p><b>【創作】</b> エプロンシアターを作成して、発表に繋がります。</p> <p><b>【歌唱】</b> わらべ歌に取り組みます。 コンコーネ 50 番より No.11～No.20 を歌います。</p>
<b>3 学期</b>	<p><b>【鍵盤楽器・歌唱】</b> 平易な童謡の弾き歌いをします。 卒業式歌や甲子園大会歌を練習します。</p>
<b>評価方法</b>	
授業に取り組む姿勢、提出物、実技テスト、課題などにより評価します。	

<b>備考</b>

## シラバス〔音楽〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校2年	未来探究	ソルフェージュ		2
<b>教科書</b>				
担当者によりプリント教材				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>ソルフェージュを用いて、音楽をする上で必要な基本的な力を身につけます。</p> <p>聴音と視唱に分けることにより、ソルフェージュをより深く学ぶことができます。</p> <p>記譜法にも触れながら正しい楽譜の書きかたを学びます。</p> <p>生徒自身がピアノを利用しながら、ソルフェージュに取り組めるように指導します。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1学期</b>	<p><b>【聴音】</b> 楽譜の書き方、リズム聴音、音あて、主要三和音の基本型の音あて等を実施します。</p> <p><b>【視唱】</b> 全音符、二分音符、四分音符、八分音符、十六分音符を用いた曲の読譜をします。 歌唱教材や練習曲を用いた視唱の練習をします。</p>
<b>2学期</b>	<p><b>【聴音】</b> 前学期に加えて、全音符、二分音符、四分音符、八分音符を用いた旋律聴音を実施します。 また、生徒の進度に応じて、十六分音符を取り入れます。</p> <p><b>【視唱】</b> 前学期に加えて、付点音符を用いた曲の読譜をします。 歌唱教材や練習曲を用いた視唱の練習をします。</p>
<b>3学期</b>	<p><b>【聴音】</b> 前学期に加えて、付点音符を用いた旋律聴音を実施します。</p> <p><b>【視唱】</b> 前学期に加えて、音楽の用語について学びます。 歌唱教材や視唱の練習をします。</p>
<b>評価方法</b>	
授業の出席、関心、意欲、提出物、実技テスト、課題などにより評価する。	

<b>備考</b>

## シラバス〔音楽〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	選抜・未来探究	芸術	音楽	2
<b>教科書</b>				
改訂版 『高校生の音楽3』 音楽の友社				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにします。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養います。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1学期</b>	<p><b>【器楽】</b> リズム、速度、旋律、強弱などに留意し、読譜の技能を身につける。鍵盤楽器を取り扱います。</p> <p><b>【歌唱】</b> 校歌、日本語の歌の歌唱をします。</p> <p><b>【鑑賞】</b> ミュージカルや音楽をモチーフとした映画を鑑賞し、自分自身の考えを文章にまとめていきます。</p>
<b>2学期</b>	<p><b>【器楽】</b> 鍵盤楽器を更に実習します。</p> <p><b>【歌唱】</b> 日本語の歌、外国語の歌の歌唱をします。</p>
<b>3学期</b>	<p><b>【器楽・歌唱】</b> 各自の希望により、表現方法・表現形態及び楽曲を選択し、個性的創造的な音楽表現をします。</p>
<b>評価方法</b>	
授業に取り組む姿勢、提出物、実技テストなどにより評価します。	

<b>備考</b>

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程	音楽専門教科	音楽理論Ⅰ（楽典）	1
<b>教科書</b>				
『明解 新楽典』 音楽之友社 田島亘 武藤好男 他著				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>音楽理論の楽典を学ぶことにより、自身の演奏に生かす。また、大学入試にも対応できるように、二学期には音楽系私立大学や国公立大学の過去の入試問題に取り組み、より実践的な授業を試み自分の進路に活かせるようにする。</p> <p>音楽用語にも触れて、知識の幅を広げる。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1 学期</b>	<p>1・2年次の総復習、音楽用語について学ぶ。</p> <p>音程・音階・調などの楽典における基本的事項。</p> <p>教会旋法・移調・調判定などの楽典における応用的な事項。</p> <p>上記の応用的な事項に基づいて実践的な問題に取り組む。</p>
<b>2 学期</b>	<p>私立音楽大学入試問題の傾向と対策。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同志社女子大学学芸学部過去問題</li> <li>・神戸女学院大学音楽学部過去問題</li> <li>・桐朋学園大学音楽学部過去問題</li> <li>・国立音楽大学音楽学部過去問題</li> </ul> <p>国公立音楽大学入試問題の傾向と対策。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県立芸術大学音楽科部過去問題</li> <li>・京都市立芸術大学音楽学部過去問題</li> <li>・東京藝術大学音楽学部過去問題</li> </ul>
<b>3 学期</b>	<p>国公立音楽大学入試問題の傾向と対策。</p> <p>二学期の国公立音楽大学の過去問題を踏まえて、三年間の集大成としての音楽理論を学ぶ。</p> <p>大学に入学しても十分な力が発揮できるように、演奏に結びつく音楽理論を学ぶ。</p>
<b>評価方法</b>	
<p>定期考査、課題プリント、提出物、授業時の出席率や参加度などにより評価する。</p> <p>定期考査の配点：A問題（基本50点）B問題（標準30点）C問題（発展20点）</p>	

<b>備考</b>

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程	音楽専門教科	音楽理論Ⅱ（和声）	1
<b>教科書</b>				
担当者のプリント				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>和声が楽曲中でどのような役割を果たしているかを考え、四声体の書式で和声の実習をする。耳で聞く「この和音の進行が心地良い」という感覚と、「なぜそうなるのか」という理論を結び付け、広い視野で楽曲を捉えられるようにする。また、授業で得た知識をもとに、どのように演奏するのが適切であるか、各自の演奏に対する表現力を養うことを目的とし、学習を進めていく。同時に、音楽理論Ⅰ（楽典）分野では扱わない楽曲分析を含む大学入試問題にも取り組み、和声の学習で得た知識を幅広く活用する柔軟性を養う。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1 学期</b>	<p>非和声音の分析について学習する。 非和声音の知識を生かし、平易な曲の楽曲分析と大学入試（私立）に取り組む。 基本形と第1転回形の三和音の連結について復習する。</p> <p>第2転回形の三和音の特徴について学習する。 バス定型について学習する。 禁則について学習する。 三和音のみを扱うバス課題などのあらゆる問題に取り組み、理解を深めていく。</p>
<b>2 学期</b>	<p>属七の和音の特徴について学習する。 バス定型について学習し、1学期までに学習した三和音も含めて、与えられたバスに和音設定ができるように学習する。 属七の和音を含むバス課題などのあらゆる問題に取り組み、理解を深めて行く。</p> <p>コードネームについて学習し、平易な旋律に伴奏をつける。 非和声の分析の復習、簡単な楽曲の形式について学習し、大学入試問題（国公立）に取り組む。</p>
<b>3 学期</b>	<p>三和音と属七の和音について全体像をまとめ、復習する。 卒業後、どのように和声について自立して学びを進めていくのか、和声で得た知識をどのように演奏で表現していくか、考える道筋を立てる。</p>
<b>評価方法</b>	
<p>定期考査、課題プリント、提出物、授業時の出席率や参加度により評価する。 定期考査の配点：A 問題（基本 50 点） B 問題（標準 30 点） C 問題（発展 20 点）</p>	

<b>備考</b>
-----------

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽科課程	音楽専門教科	鑑賞研究	2
<b>教科書</b>				
『はじめての音楽史 決定版：古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社, 2017 久保田慶一〔ほか〕著				

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
<p>音楽作品の鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考えを働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>音楽作品や演奏、作曲家などについて理解を深めるとともに、根拠を明確にして批評することにより思考力を深める。</p>	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1 学期</b>	<p>古典派の音楽：ベートーヴェンの作品 ロマン派の音楽（1）：シューベルトの作品 上記の作品について分析し、理解を深めることによって自分の演奏に紐づけることを目標とする。</p> <p>ロマン派の音楽（2）：ロマン派前期の作品 作曲家やその特徴についての理解を深める。 ロマン派の音楽（3）：ロマン派後期の作品 使用される楽器やその書法や特徴を学び、理解を深める。</p>
<b>2 学期</b>	<p>ロマン派の音楽（4）：ロマン派後期の作品・ 拡大された調性や楽器編成について理解を深める。</p> <p>近代の音楽（1）：国民主義の作品 各作曲家の特徴や、歴史的な出来事も含めて、音楽にどう生かされているか学びます。 近代の音楽（2）：フランス近代の作品 響きを中心にした音楽の特徴・和声についての理解を深め、自分がフランス音楽に取り組む時の意識を深めます。</p>
<b>3 学期</b>	<p>20 世紀の音楽 様々な音楽の表現方法について学びます。非調性の音楽がどのように聴衆に対して、意識されるのかを具体的に理解します。作曲や創作作品の著作権についても学びます。</p>
<b>評価方法</b>	
<p>定期考査、課題プリント、提出物、授業時の出席率や参加度により評価する。 定期考査の配点：A 問題(基本 50 点) B 問題(標準 30 点) C 問題(発展 20 点)</p>	

<b>備考</b>

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程	音楽専門教科	ソルフェージュ (聴音)	2

**教科書**

担当でテキストを用意する。

**授業のねらい (年間指導目標)**

聴音に関する応用的な知識や技能を身に付け、音楽性豊かな表現をするための基礎を培う。  
また、聴音の力を身に付けることにより、音感能力を高め、自分の演奏に生かせるようにする。  
大学入試問題も取り入れながら、旋律聴音、二声副旋律聴音、四声体の幅広い聴音に学習をする。  
記憶聴音にも取り組み暗譜に役立てるようにする。

**授業の進め方 (年間指導計画)**

<b>1 学期</b>	四声体 (密集・開離) リズム記憶 (4～6 小節) 旋律及び旋律と伴奏の記憶 (4～8 小節) 二声複旋律 (4～8 小節) 旋律 (8 小節～12 小節) ＜全ての長調・短調＞
<b>2 学期</b>	大学入試問題 四声体 (密集・開離) リズム記憶 (4～6 小節) 旋律及び旋律と伴奏の記憶 (4～8 小節) 二声複旋律 (4～8 小節) 旋律 (8 小節～12 小節) ＜全ての長調・短調＞
<b>3 学期</b>	大学入試問題 四声体 (密集・開離) リズム記憶 (4～6 小節) 旋律及び旋律と伴奏の記憶 (4～8 小節) 二声複旋律 (4～8 小節) 旋律 (8 小節～12 小節) ＜全ての長調・短調＞

**評価方法**

定期考査、課題プリント、提出物、授業時の出席率や参加度により評価する。  
定期考査の配点：A 問題(基本 50 点) B 問題(標準 30 点) C 問題(発展 20 点)

**備考**

2クラスで実施。定期考査毎にクラス分けを行う。

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程	音楽専門教科	ソルフェージュ (視唱)	2

## 教科書

『全訳コールユーブンゲン』大阪開成館  
『ダンノーゼルのソルフェージュ2A』  
各授業担当者によるプリント教材

## 授業のねらい (年間指導目標)

視唱に関する応用的な知識や技能を身に付け、音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にすることを養う。今回は、2時間続けて授業を行うことにより入試問題から、難易度の高い視唱に取り組み、合唱や自分の演奏に生かせるようにする。

生徒の進度状況に合わせて、リズム課題や重唱による視唱も取り入れていく。また、音楽的な表現を伴う課題に関しては、その課題に指示されている音楽用語も学んでいく。

## 授業の進め方 (年間指導計画)

1学期	『コールユーブンゲン』総復習 『クレ読み』アルト記号 『ダンノーゼルのソルフェージュ』2Aより抜粋 『新曲視唱』入試問題 担当者による『新曲視唱』の問題
2学期	『コールユーブンゲン』総復習 『クレ読み』テノール記号 『ダンノーゼルのソルフェージュ』2Aより抜粋 『新曲視唱』入試問題 担当者による『新曲視唱』の問題
3学期	『コールユーブンゲン』総復習 『クレ読み』テノール記号 『ダンノーゼルのソルフェージュ』2Aより抜粋 『新曲視唱』入試問題 担当者による『新曲視唱』の問題

## 評価方法

定期考査、課題プリント、提出物、授業時の出席率や参加度により評価する。

## 備考

3クラスで実施。定期考査毎にクラス分けを行う。

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程	音楽専門教科	合唱	2
<b>教科書</b>				
合唱楽譜を取り扱う				

### 授業のねらい (年間指導目標)

10月に行われる定期演奏会での演奏に向けて練習を重ね、ハーモニーを奏でる喜びを感じる「楽器」としての身体を意識し、より良い響きを作るための発声を身につける。また、楽曲の歌詞をよく理解し、音読をすることにより、それぞれの言葉を明確に発声できるようにする。発声練習については、息の使い方や音程の調整方法を学び、将来指導者になった時に活かせるようなメソッドを取り入れる。

### 授業の進め方 (年間指導計画)

1学期	パート分け 発声練習 ハーモニー練習 カノンを使った練習 歌詞の音読練習 楽曲の歌詞についての分析 合唱楽譜の譜読みと練習
2学期	発声練習 ハーモニー練習 合唱楽譜の譜読みと練習 言葉に対する意識付け 全曲の暗譜練習 全曲の仕上げ練習 演奏会に向けた集中練習
3学期	発声練習 ハーモニー練習 合唱の授業のまとめ

### 評価方法

歌唱テスト  
 出席状況  
 授業時や演奏会への取り組み姿勢などにより評価する。

### 備考

--

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程器楽専攻	音楽専門教科	合奏(管)	1
<b>教科書</b>				
教科担当が用意した楽譜				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>管楽器による基礎合奏を中心に、楽曲を用いて具体的な楽譜の読み取りや音楽構造の理解を深め、技術的に楽器を吹くことにとどまらずに、より優れた音楽表現や音楽的フレーズの捉え方を学ぶ。その上で、楽器間のバランスや和音構成を踏まえた合奏能力の向上を目指す。</p> <p>個人の技術を伸ばすと共に、人前で演奏する機会を経験して、将来的に舞台上に立った時に充分な力を発揮できるようにする。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1 学期</b>	<p>基礎合奏により、和音構成を意識したピッチコントロールを学ぶ。</p> <p>楽器演奏に於いて、陥りやすい潜在的な演奏上の問題点を認識させ、それについて自らが客観視し自覚する事により自力で解決できるように導く。</p> <p>楽曲の構成や和音を意識した合奏能力の向上を目指す。</p> <p>個人の技術を伸ばす。</p>
<b>2 学期</b>	<p>楽曲分析を行い、曲の持つサウンド感やリズム感について学ぶ。</p> <p>歌う事との共通点を見出し、音楽的であるということはどういうことなのかを探求させる。</p> <p>楽曲を通して学習し、曲の持つ音の特徴やリズムの特徴を理解しながら演奏出来る能力を身に着ける。</p> <p>舞台上での入場の仕方、お辞儀の仕方の基礎的なことを学ぶ。</p>
<b>3 学期</b>	<p>ピッチコントロールやサウンドバランス等を理解しながら、より柔軟でデリケートな演奏ができるようにトレーニングを繰り返す。</p>
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スコアの理解</li> <li>・合奏に入る前の個人での準備</li> <li>・授業への取り組み(課題、出席、予習等)</li> <li>・音楽的な理解の深さ</li> <li>・技術に縛られない音楽表現の自由さ。</li> </ul>	
<b>備考</b>	

## シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程器楽専攻	音楽専門教科	合奏(管弦打)	1
<b>教科書</b>				
教科担当が用意した楽譜				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>音楽を演奏するための楽曲分析を行い、基本から高度な演奏技術を修得する。楽曲を用いて、具体的な楽譜の読み取りや音楽構造の理解を深め、技術的に楽器を演奏することにとどまらずに、より優れた音楽表現や音楽的なフレーズの捉え方を学ぶ。その上で、楽器間のバランスや和音構成を踏まえた合奏能力の向上を目指す。合奏を通して、個人の技術を高めるとともに、人としてのコミュニケーション能力を高める。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1 学期</b>	<p>楽器ごとの発音方法や持っている特性の違いを学び、その中でどのようにアンサンブルしていくかを学ぶ。</p> <p>スケール、アルペッジョについて学ぶ。</p> <p>ハーモニーについて学ぶ。</p> <p>それぞれの楽器の特性について学ぶ。</p>
<b>2 学期</b>	<p>オーケストラの中での各楽器の役割を理解し、調和を満たしながらアンサンブル能力を高める。</p> <p>音型を整える。</p> <p>音色について考察する。</p> <p>和音の分析をして、響きとバランスを調整する。</p> <p>オーケストラの配置や、舞台上での動きについて学ぶ。</p>
<b>3 学期</b>	<p>「自然な演奏」とは何を意味するかについて、考察し、音楽における「強迫・弱拍」は何故あるのか等の「自然と音楽の結びつき」についての理解を深める。</p> <p>楽曲分析を行う。</p> <p>「自然」を踏まえた音楽的表現を学ぶ。</p>
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スコアの理解</li> <li>・オーケストラに入る前の個人での準備</li> <li>・授業への取り組み(課題、出席、予習等)</li> </ul>	

<b>備考</b>
-----------

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程声楽専攻	音楽専門教科	演奏研究(声楽)	1
<b>教科書</b>				
担当者が用意した教材				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
<p>2年時で学習した西洋史、西洋音楽の先にある日本近代歌曲の発展を中心に楽曲分析し、日本語の歌曲における発音、発語を学習する。そして、近代日本史の背景とともに研究する。</p> <p>また、将来勉強する機会が出てくるドイツ語、フランス語の歌曲にも触れ、語学に苦手意識が出ないよう歌唱における言葉の大切さを学習する。</p> <p>3学期には総合的に、楽譜への取り組みから言葉の調べ方、曲の背景の研究、歌うために必要な姿勢やお辞儀の仕方まで、演奏することに必要なことを総合的に学習する。</p>	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1学期</b>	<p>日本歌曲の発展と歴史について研究する。</p> <p>日本歌曲の形式について研究する。</p> <p>日本歌曲の作曲家、作詞家について研究する。</p> <p>日本語の詩の歌唱と形式(自由詩、定型押韻詩)について研究する。</p> <p>日本語特有の鼻濁音について学習し、聞き取り易い日本語歌唱を目指す。</p>
<b>2学期</b>	<p>イタリア語古典歌曲及び近代歌曲について研究する。</p> <p>ドイツ語及びフランス語の歌曲について研究する。</p> <p>ベルカント唱法について研究する。</p> <p>以上の中で、イタリア語、ドイツ語、フランス語の華僑について触れ、時代、原語の違いによる特徴をとらえる。</p> <p>ベルカント唱法について研究する。</p> <p>生徒自身で調べ、意見を出しながら唱法について探求していく。</p>
<b>3学期</b>	<p>西洋史とオペラ作品のつながりについて研究する。</p> <p>楽譜の読み取り方を研究する、また、辞書や楽語支店の活用の仕方を学ぶ</p> <p>オペラのDVDを鑑賞し、内容を把握し、演技の仕方を研究する。</p> <p>オペラ歌手の映像等を鑑賞し、舞台上でのマナーや風草生、お辞儀の仕方等の基本的なことを学習する。(歌唱と共に実践してみる)</p>
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの提出</li> <li>・歌唱テスト</li> <li>・授業への取り組み(課題、出席、予習等)</li> </ul>	

<b>備考</b>
-----------

シラバス〔音楽課程〕

学年	コース	教科	科目	単位数
----	-----	----	----	-----

高校3年	音楽課程器楽専攻	音楽専門教科	演奏研究(管弦打)	1
<b>教科書</b>				
現在取り組んでいる独奏曲及びエチュード、またはアンサンブル作品。				

<b>授業のねらい (年間指導目標)</b>	
独奏曲・エチュード・アンサンブル作品を用いて「楽譜を読み解き表現する力」を育成する。 2年生ではソルフェージュで学んだ音楽基礎知識を活かし、作品の特徴を理解する力を身につけた。3年生では2年生で習得した読譜力を活かし、専攻楽器の演奏を通じて音楽表現の幅を広げることが目標である。	
<b>授業の進め方 (年間指導計画)</b>	
<b>1学期</b>	楽譜からその作品のイメージをつかむ。 拍子からフレーズの重心が置かれるところを把握すると同時にメトリックアクセントを感じる。 リズムは「動き」という認識を持たせる。(何がどんな風にうごいているか等) 音高から「スケール」「アルペジオ」を掴み、表現につなげる。 デュナーミクから音楽に立体感を持たせる。 フレーズから旋律の区切りを感じる。アーティキュレーションから音を造形していく。
<b>2学期</b>	調性から音色へ繋げる。調性論を基に、調性に対する考え方を身に着につける。 また、和声機能(トニック・ドミナント・サブドミナント(第二ドミナント))を理解し、旋律ごとの色彩を考え、音楽表現に繋げる。 ドッペルドミナントなど、借用和音を感じる訓練を取り入れる。 非和声音(経過音、刺繍音、倚音、繋留音、逸音、先取音)の効果を理解し、楽器での表現を模索する。
<b>3学期</b>	構成から表現を考える。作品にストーリー性を持たせ、解釈、表現の幅を広げる。 作品の特徴を捉え、その場面にあったイメージを「頭の中」で作る。さらに、自分の楽器に合ったアプローチを考え、聴いている人にイメージが伝わるように表現の工夫をする。
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で作成した楽譜・スコアの提出</li> <li>・授業への取り組み(課題、出席、予習等)</li> </ul>	

<b>備考</b>
-----------

### シラバス [音楽課程]

学年	コース	教科	科目	単位数
高校3年	音楽課程ピアノ専攻	音楽専門教科	演奏研究(ピアノ)	1

<b>教科書</b>
教科担当が用意した楽譜

<b>授業のねらい（年間指導目標）</b>	
演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。また、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。音楽作品のバックグラウンドを理解し、時代背景及び歴史の流れや傾向を掴み、演奏すべきスタイルや奏法、それに必要な技術を見極めて研鑽を積む。	
<b>授業の進め方（年間指導計画）</b>	
<b>1 学期</b>	6 月に行われている公開実技テストで演奏する曲の楽曲分析及び曲目解説に取り組む。また、作曲者の時代背景や出生国、曲目の構造、調性、形式を把握し理解を深め、様々な演奏者の演奏を聴くことにより演奏の質、表現力の向上に繋げる。分析を通じて、スキルアップに必要な方法、知識が何かを考え、その事項に自発的に取り組んでいく。 同じ専攻の生徒同士で意見交換、感想やアドバイスをシェアする場を設け、様々な角度から自分の演奏や演奏曲を客観視できる力をつける。
<b>2 学期</b>	器楽の伴奏を通して、ほかの演奏者とのアンサンブルの仕方を学ぶ。 それぞれの楽器の特徴を知り、ピアノとの違いを見つける。 チューニング、楽譜の読み方などの伴奏に関する知識を学んだ後に、器楽の生徒と一緒に演奏することを体感しながら経験を積む。 個別に演奏する時との違いを見つけ、共有すべきこと、お互いに尊重すべきことを考える。
<b>3 学期</b>	1 学期での楽曲を分析する力、2 学期での人と合わせる経験を活かしてピアノ同士でのアンサンブルに取り組む。ピアノ同士での演奏に必要なことを考え、準備すべき事項、留意すべき事項を見つける。個別に演奏する時との違いを見つけ、演奏に活かす。 1 台ピアノでの連弾で近距離のアンサンブルに慣れた後に、2 台ピアノで遠距離（対面）に取り組み、実践で必要なことを身につけていく。共演相手を変えて、演奏がどのように変わるか実際に体験してみる。
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に出された楽曲の分析及び、表現の手法の理解や、演奏を通して評価する。わからないことを自発的に調べ、質問し、理解を深める努力があるかを見る。</li> <li>・授業への取り組み(課題提出、発表、授業への関心、意欲)</li> </ul>	

<b>備考</b>
-----------